


# みかんの味が消えるとき

朝の風景

パンをかじり、毒がむいくれたみかんを

ほお張りながら新聞に目をつける 

毒が「今日のみかんのあ味はどう?」と

私は目が 〇〇 点になった。

意識は新聞記事に向いていて、全くみかんの味は分かっていなかったのです。

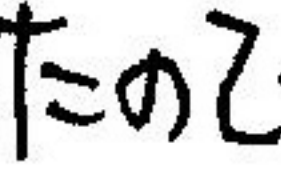
時間がないから新聞を読んでいたということもなく、

ただ何となく手持ち無沙汰で……

そんなこと、今目の前にある楽しいお食事の

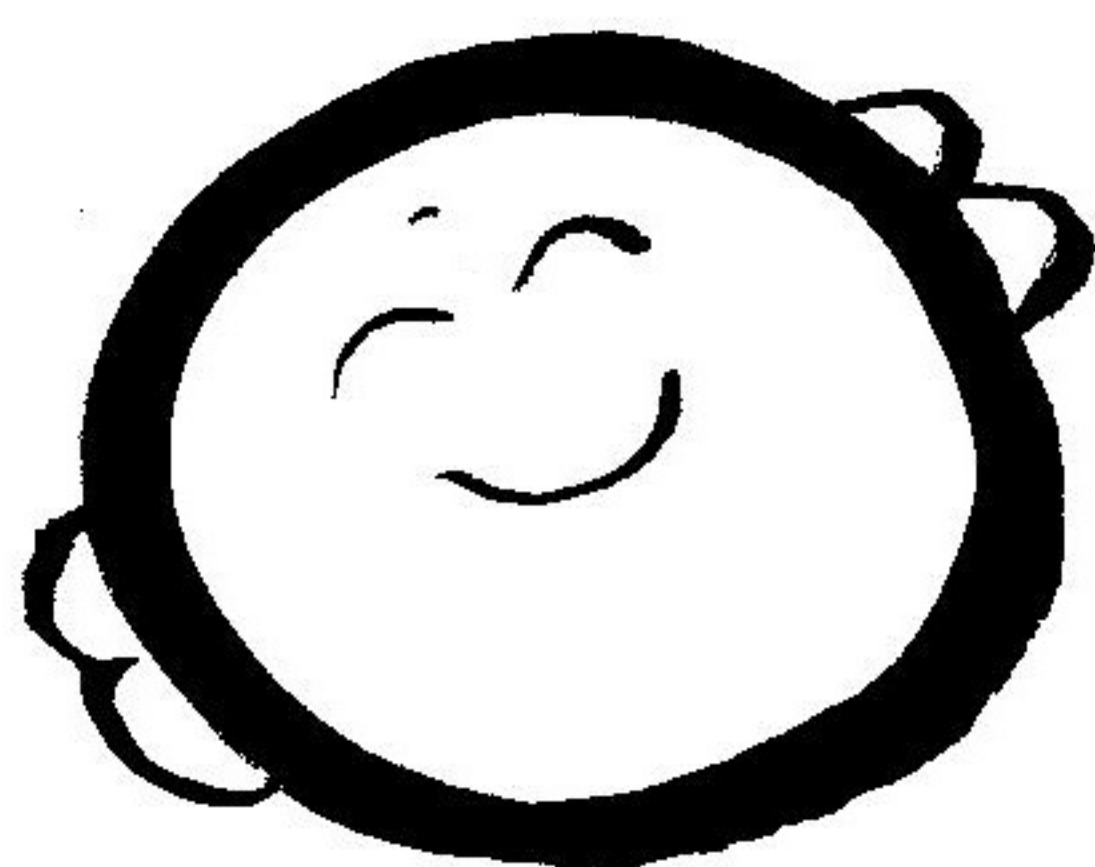
味が消えるとは… なんと怖いことだろう。

このようなことは日々の生活の中に  
いっぱいあることでしょう。

目の前のものがみかん  だったのだ

許してくれたかもしれないが、

人だとしたら…… 怖いことであらね。



# おじいさん だよ

Vol.131  
2015年5月

作者: 鳥越介順



働いっしょに保険を選びましょうオフィス鳥越

# ながらは 流れるとき

人生は濃い濃い時間ばかり  
では無さそうです。

ゆえに流されていくように過ぎる  
時間も当然にあるでしょう。

その代表的ものが

~ながら時間~でしょう。

一見、2つのことを同時に行うと  
充実しているかのように感じるが

実は人生として、魂と見ると

流れるひとときでしょう。

ついつい出来てしまう

簡単に出来てしまうところに

落穴があるようであらね。

# お笑い話の連続!!

笑って元気に!!

弟の夏休みの宿題。

「20世紀梨の産地をお店のダンボールで調べてきなさい。」

弟が書いた答えは・・・ 「直送」

どうやら「産地直送」と書いてあったのを見たらしい。

阪急電車の中、3歳位の男の子がおしっこをしたがっている様子。

子供「ママおしっこ」

ママ「どうしてもっと早く言わへんのっ!」

すると子供は何を考えたのか……

早口で「ママッおしっこ」。

昔、母を駅まで送ったときのことで。

ラジオから手塚治虫の訃報が流れたときでした。

母が「誰が亡くなったの?」と聞くんで……

「鉄腕アトムを作った人だよ」と答えました。

「ふ〜ん・・・、御茶ノ水博士がねえ〜」



おじいちゃんが入院して危篤状態になっていた。

見舞いから帰ってきた親戚の方が、おばあちゃんに聞いた。

親戚の人「おじいちゃんの入歯は?」

ばあさん「捨てた」

親戚の人「ええーッ! おじいちゃん元気になって、

ごはん食べたいと言っているよ!」

ばあさん「ええっ! もうダメだと思ったのに……」

おばあちゃんの話です。

お医者さんに行き、「お尻に入れなさい」と座薬を渡されました。

おばあちゃんは、お汁に入れて飲んでいました。

「君は、相当頑固な性格だね。」

「いえ、そんなことはありません。」

「いや、頑固だよ。」

「いいえ! 絶対に頑固なんかじゃありません!」



高校の時の体育の先生がお見合いをした時の話。

女性「ご趣味は?」

先生「読書です」

女性「ロミオとジュリエットはお読みになりました?」

先生「ええ、ロミオは読みましたがジュリエットはまだです」